

3827 地球のかおり：「枯れ木と夕日」(産経新聞)・心模様

海に沈む夕日の目撃は多い。山が水平にあり、夕日が沈む、いや、隠れる様は初体験。海と違って、真っ赤に輝く。表現が、何とも難しい。

まず、そうした山並みがあるようでない。時は夏。山深いカナダ東部の山上。

かなり北上した地点で遭遇したワンシーン。風は微風。物音一つしない。

人の運、不運は定めがない。偶然か、必然か。

下山して、宿に戻らなければならない。足元の道が見えなくなる。

夜になると、動物が出没するかも知れない。危険が想定できる。

すでに、周りは暗くなってきている。しかし、この夕日の魅力には、勝てなかった。

灯りも持参してきている。夜道に日はくれない。覚悟を決めた。

夏山の魅力。寒くはない。ほどの良い体感。何しろ絶景。

一期一会、このチャンスを逃すわけには行かない。

山に沈む夕日。登山家なら機会はあるだろう。雲海に沈む夕日も何度か体験している。

眼前の光景は、実に微妙な光景。光と影が、なんとも面白い。

左の枯れ木？ 老木？ が目に飛び込んで来た。人は見かけによらない。木も同じ。

朽ちてしまうのか、翌年、芽を出すかもしれない。

たかが枯れ木、されどである。

枯れ木のおかげで、見え方が変わってくる。視界に入る遠近感。

いま少し構図としては、配置を整えたい所。主役、脇役、借景、構成、構図、光と影。

空気感も大切。絵画ならデフォルメできる。久楽流は違う。事実を、実像を撮る。

過去、現在、未来が凝縮された瞬間。自称、心象アート。

メイクはしない。虚像の虚に、口をつけると嘘。

左端は、ブッシュで断崖のよう。灯りがあっても暗い。思うようなポジションが取れない。

そうした状況の中で、いかに知恵を使い工夫するか。

夕日のスピードは、思ったより早い。油断はできない。一期一会の瞬き。

立つ位置の確保。この時は一番の問題だった。

作品を見るだけの人にはわからない。海外、カナダ、奥深い山の中。

大きな木があれば、身体にロープを縛りつけても、ベストポジションを見つけるのだが、時間との戦いもある。待ったなし。構図の妥協も仕方なし。

刻々と、色彩も状況も変化する。感性しかり、詳細に見れば、同じ光景はない。我を忘れて、至福の時間を楽しんだ。

私の人生、人生の後半、好きな事が見つかった。人の運、不運に定めがない。

スキ、ヤルキ、コンキ、ゲンキ、と結びつく。苦労も苦にならない。

結果というより、プロセスが楽しい。結果も出て、人様から共感を得られるのも嬉しい。

この場面で、そんな気持ちは、さらさらない。

眼前の光景に集中。何も見えない。

苦労して、汗を流して、このポジションに来た甲斐があった。

厳しい上り坂を、峠まで、上りきってこそ、素敵な景観が見られるというもの。

こまめに、記録の意味でも、感動を、フィルムに。自分に、素直に。

邪魔くさがらずに、やれたのが良かった。こんな素敵な景観、あの人にも見せたい。

欲張りすぎて、もっと先に、もっと奥にと、先を急いでいたら、

素敵な作品は、残らなかったかもしれない。あの人は、どうしてこの角度から？

感性と心根の違いがあるように思う。心の落ち着きも大切。

時間と身体とお金と心。何かを得るために、何かを失うこともある。

何かを犠牲にして、何かを得ることもある。運、不運に定めがない。逆もある。

偶然、必然、形あるもの、形ないもの。

生きていて、元気で、この現場に立てる。素敵な夕日を目撃できたこと。

腹の足しにはならないが、健康という身体の足し、何よりも、心の足しには、大いになった。

たかが一枚のワンシーン。この実感、少しでも多くの人に伝えたい。自然の素晴らしさ。

自然の大切さ。夢と元気も発信したい。私の使命かもしれないと、自分を勇気づける。

帰り道が、待っている。夕日にパワーをもらった。元気ハツラツ。

杖代わりの頑丈な一脚がある。危険があっても、充分戦える。無事帰還。

宿に戻っての、一杯のコーヒー。冬は、ショコラ。最高の時間である。

貴重な夢絵のモチーフもゲット。誰に感謝すればいいのだろう。感謝。感謝。感謝。